

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五〜六、（公衆）〇四七二二七二〇七

国鉄「分割・民営化」反対 / 三里塚二期工事阻止 /

シリーズ3

# 今こそ反命運動保安確立の闘いを

## 動労革マル・鉄道労連の解体・一掃 なしに運動保安は守れない！

「4・1分割・民営化」体制下で、小事故や「事故のタマゴ」が全国的に多発していることは誰でも知っていることです。これをJR当局と動労革マル・鉄道労連役員だけが否定し、「4・1以降、事故が減った」とデマ宣伝しています。

JR当局を代弁し、  
労働者を殺すもの

平野君の死を忘れるな！

「その2」で、事故多発と合理化と強権的労務支配は同根の攻撃であることを明らかにしました。もうひとつ、われわれは、このような攻撃の嵐が吹き荒れるとき、必ず、労働者の中から「自分だけ：」を主張して裏切る者や集団が出ることに、そして、この裏切り者を忌み嫌いながらも、これに屈服してしまふ労働者や労働組合が出てくることを見なければなりません。

動労革マル・鉄道労連は「事故多発や運動保安を云々することは、自社商品を傷つけるものであり、会社から追放しなければならぬ」とJR当局を代弁しています。これは、まさに労働者殺しの犯罪です。

「事故」から労働者を守るのが  
労働組合の使命

また、国労をはじめとする他の労働組合は、この「動労革マルの問題」から、ことさらに眼をそらしています。われわれは「鉄道労連内各勢力だけに止まらず、JR当局一部幹部までが動労革マルに引きまわされていること」に屈服し、結果として、動労革マルが、政府・自民党やJR当局の先兵として主張している反動をことごとく追認することになってしまっている現実をも直視しなければなりません。

「『動労革マル』を問題の焦点に据えて、鉄道労連から脱退した鉄労が、たった二週間で、『JR当局によって』ツブされた」ことに恐怖するあまり、闘いを貫徹することのできない労働組合（運動）指導部があるとしたら、それは、国鉄労働者から見れば、運動事故から生命を守ることとはもちろん、事故責任の押しつけからも国鉄労働者を守ることでできないという意味において、動労革マルと同列なのです。

国鉄労働者は「事故問題」から眼をそらすことはできません。

それは、自らの死を意味するからです。三年前に、勝浦運転区の平野君が「ほおじる踏切」で殺されたのはじめ、多くの国鉄労働者が「当局や労働組合がキチンとすれば死ななくてすんだ生命」を失っているのです。

われわれは、平野君の死に対して誓ったことを「4・1分割・民営化」があつたからと、忘れてしまつてよいのでしょうか。

「国鉄から民間会社になった。だから、自社商品を傷つけることは、社員を食えなくする。従つて、事故や安全を云々するやつは会社から追い出せ」という動労革マル・鉄道労連の解体・一掃なしに、われわれは、自らの生命を守ることができないのです。

鉄道労連に逃げ込む職制

鉄道労連に逃げ込み、動労革マルと一体化する職制に対し、われわれは、「自分の出世のためにわれわれの生命をさし出せというのか」ということを、いささかのあいまいさも許さず、突きつけなければなりません。

千葉運行部・斉藤や河野が、部下職制を狩り立て、職場・生産点を荒らしまわり、事故発生の温床作りを行っていることは、われわれに対する殺人攻撃なのだということを、われわれは、怒りをこめて突きつけてやらなければなりません。



乗客ら50人重軽傷  
平野君の死をムタにするな！

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！